

## 令和5年度秋田県職業能力開発審議会の要旨

【日 時】 令和6年3月25日（月） 午後1時30分～午後3時30分まで

【場 所】 秋田県庁 議会棟2階 特別会議室

【出席者】 学識経験者：江畠委員、佐藤（賢）委員、西野委員、山口（留）委員  
事業主代表：雑賀委員、深川委員、堀江委員、山崎委員  
労働者代表：工藤委員、山口（厚）委員  
特別委員：今野（将）委員、藤澤委員  
事務局：佐藤産業労働部次長、高橋雇用労働政策課長ほか関係職員

### 【概 要】

- 1 開 会
  - 2 秋田県産業労働部次長あいさつ
  - 3 委員紹介
  - 4 秋田県職業能力開発審議会会長あいさつ
  - 5 議 事
- (1) 報告事項

- ①第11次秋田県職業能力開発計画における職業能力開発事業の実施状況について
- ②令和6年度職業能力開発事業実施計画について

はじめに、報告事項①から②について一括して事務局から説明後、質疑応答を行った。質疑応答等の主な内容は以下のとおりである。

○ 鷹巣技術専門校の入校生が非常に少ないですが、入校者を増やす取り組みは色々なことをされているようです。その中で、効果のあった取り組みはあるでしょうか。一気に入校生を増やすのは無理だと思いますが、地道でも効果があるところに取り組みをシフトするなど、少しでも成果につながればいいと感じたところです。

→ 入校者を増やすための各種取り組み（高校訪問、テクノスクールフェア、地域産業祭への参加等）については、実際に生徒が専門校を希望する動機になったという声のほか、地域貢献も含め評価いただいています。

来年度は特に鷹巣技術専門校について、例えば青森や岩手など県北地域に接する他県に対してPRしたり、入校のメリットを伝えることにより力を入れて取り組む予定です。

- 授業料も安く、これほど素晴らしい専門校がありながら、定員数に満たないのは残念です。今年は高卒者も一層少なく、やはり大学進学者の増加や人口減少が原因かと思われま

す。本人が望まない、専門校に入り訓練科に応じた就職をするというのは難しいと思われま

- やはり今の子供たちにとって親の意向は、就職であっても進学であっても非常に影響があると思

- 学卒者訓練の就職が100%といっても、県外就職の方もいます。秋田県の職業能力開発校を修了し、なぜ県外就職なのか、技術的なマッチングが県外なのか、単純に待遇の問題なのか分

かれば教えて欲しいです。就職先の県内企業、県外企業について大企業、中小企業などの傾向は分かるので

- 訓練生の就職については、地元企業でのインターンシップを複数箇所で行うなど、県内就職という視点で就職支援を

しております。県外就職については、やはり本人や親御さんの希望など個々の判断によりま

す。できるだけ県内就職100%を目指したいと思っております。企業規模別のデータ集計は行っておりませんが、県外就職については、特に自動車整備科は県外のディーラーを希望する方がいたり、情報系は県内に就職先が少ないことも理由か

- 技術専門校に入る生徒は、現役の生徒が多いのでしょうか。一旦大学に入ったものの進路変更したい、就職したものの転職のため新たに技術を身につけたいなどの理由で入る生徒は

- やはり高校新卒者が多いですが、中には大学を卒業してから入校する方、離職後に入校する方もいます。いわゆる第二新卒に向けたPRにも力を入れているところ

- 大学進学がどうしても増えているというのはあると思うんですが、例えば、2月後半位に大学受験の結果が出てだめだった場合、進路変更として技術専門校を考えたいという生徒がいたら、選考日程で受付期間や選考をもう少し先にできれば、そういう生徒を拾い上げられるのではないかと

→ 入校案内パンフレットには第3次募集までの選考日程しか載せておりませんが、定員が満たない科につきましては、第4次募集として、3月中に募集して3月に選考を行っています。募集に当たってはやはり高校訪問のほか、電話や郵送などにより広報しながら進めています。

○ 技術専門校の生徒が高校生と触れ合う機会というのは、どの程度あるのでしょうか。高校生の段階で、興味がある分野がある人は淡々と大学などに行くんでしょうけれども、何となく大学行くという人も一定数いるかと思います。その人たちのために、大学に行かなくても技術専門校で充実した生活を送れるということを伝えるためには、技術専門校の今現在通っている学生と触れ合うことは非常に大事だと思います。高校や技術専門校の授業の計画との兼ね合いもあるでしょうけれども、学生が高校生と触れ合う機会というのはどんどん増やしていった方がいいと考えています。

→ 各技術専門校で、高校生に対し施設見学会や説明会を行ったり、例えば大曲技術専門校では高校と合同でベンチを製作するなどの交流をしております。

○ 最近力を入れて、取り組んでいる内容はIT人材育成ということになると思いますが、鷹巣技術専門校に関連学科がないということが、これからの専門校の運営のことを考えても、入校生のことを考えても何とかならないかと思います。

→ 現在はデジタル技術を導入して生産性の向上を図るなど、情報系の企業だけでなく、製造など様々な分野の企業がデジタル技術を必要とする時代になってきています。そうした中で、企業あるいは高校生からもそのような声があるということであれば、考えていかなければならないと思います。

併せて、人口減少に伴い高校生も減少する中で、新たな科を設置する場合の指導員の確保や設備整備等の課題についても考えたうえで、可能性を探っていくことになると思います。

○ 高校を卒業したばかりの生徒で、自分はこれをやりたいというきちんとした夢を持っている人たちは、最初から技術専門校に行くと思いますが、定まっていない人もいると思います。そういう人たちをもう少し幅広く募集することができればと思います。

大学では括り入試があり、1年間様々なことを学んだ後に、2年に上がるときに希望する専攻等を選択するというのがスタンダードになっています。

技術専門校は2年間しかないので非常に難しいですが、例えば自動車整備を学ぶにしても、DXや情報等の最低限のところは学べるように、半年間他科も同じカリキュラムでやってから専門分野を学ぶなど、教科も学べるようなやり方もあると思

います。非常に今の世代に合ったことですので、覚えておいていただければ、将来の改革にはつながるかと思えます。

→ 確かに大学でも、学生に合わせた対応が重要になってきている認識はあります。現実的に技術専門校ですぐできるかというのは難しい面がありますが、鷹巣技術専門校であれば今日ご意見のあったICT系の科ができないかなどのご意見もありましたので、そういう部分も含めてどうやって魅力を上げていくかということを含めて今後検討していきたいと思えます。